

2011年6月27日

## 風土かふえ Part 4-西池袋のまちづくり- 報告書

NPO 風土-kazetsuchi-

- 日時：平成23年6月11日（土）11時30分～14時00分
- 場所：立教大学太刀川記念館3階多目的ホール
- 対象者：豊島区周辺の住民、一般、立教大学の学生等
- 目的：風の人（外から来た人）と土の人（地元の人）たちとが気軽に集まれる意見交換や情報交流・情報提供の場を提供することによって、以下の4つの目標を達成する。

- ①地域内及び地域間でのつながりをつくる
- ②西池袋に関する情報発信を行う
- ③地元住民の人材活用の場とする
- ④世代を超えて地域について語れる場とする

上記の目標を達成することにより、西池袋の地域力を強化し、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指す。

- 主催：NPO 風土-Kazetsuchi-、立教大学ESD研究センター、西池袋南町会、立教大学フェアトレードパートナー
- 後援：豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センター
- 協力：朗読と語りの会「楽」、NPO法人いけぶくろ大明、NPO法人ゼファー池袋まちづくり、池三小みどりの会、としまテレビ、豊島みどりの会、池三小子どもスキップ、区民ひろば西池袋、立教大学社会学部阿部治ゼミナール
- 協賛：株式会社遠藤製餡、小野材木店
- 参加費：無料  
(一部フェアトレード飲料とお菓子については寄付金として100円を頂いた)
- 来場者：約200名

### 【実施概要】

風土かふえ第四弾は、「西池袋のまちづくり」をテーマに、西池袋及び豊島区地域で、より良い地域づくりのために活動している「人」たちの活動紹介を中心に、以下の6つの方法で魅力を発信した。



かふえの様子①

## ①西池袋及び豊島区でまちづくり活動をしている団体の活動紹介（展示）

西池袋及び豊島区で「自然を題材としたまちづくり活動」、「コミュニティ形成を題材としたまちづくり活動」を行っている以下の12団体を選定し、それぞれの活動をパネル形式で展示してもらい、地域で参加できる活動の情報提供を行った。

### 【展示団体】

豊島みどりの会、池三小みどりの会、池三小子どもスキップ、区民ひろば西池袋、としまテレビ、西池袋南町会 環境整備部・防犯部・広報部、立教大学フェアトレードパートナー、立教大学ESD研究センター、立教大学社会学部阿部治ゼミ、NPO法人 いけぶくろ大明、NPO法人ゼファー池袋まちづくり、NPO風土-Kazetsuchi



展示の様子

かふえも今回で4回目となることから、参加団体同士で交流をもったり、互いの活動内容について意見交換をしたりする様子が目についた。また、来場者が団体の活動について熱心に質問する姿が見られ、後日団体の活動に参加したいという問い合わせ等も来ていたようである。上記のことから、本イベントの目標の一つである地域内及び地域間でのつながりづくりはある程度達成できたと考えられる。

## ②有機無農薬やフェアトレードの飲料、地元のお店で作られた環境や健康に配慮されたお菓子の提供

### 【地元の飲料・菓子】

西池袋でオーガニック飲料を製造・販売している株式会社遠藤製館から、今回もあずき茶を無償で提供していただいた。また、池袋の大桃豆腐で販売されているおからで作られたかりんとう「おからのちから」を購入して提供した。「おからのちから」の売上は全額が東日本大震災で被災した大豆農家への義援金となるとのことである。



かふえの様子②

### 【フェアトレードの飲料・菓子】

立教大学フェアトレードパートナーに協力していただき、会場での飲食用に東ティモール産コーヒー・フィリピン産かりんとうのセットを100円の寄付金で提供するとともに、持ち帰り用に同じ商品の販売をおこなった。フェアトレードへ寄付された方は40名であった。

### ③西池おはなし会-豊島のむかしばなし Part2-

昨年に引き続き、豊島区で幼稚園～高校生を対象に読み聞かせを実施している団体「朗読と語りの会「楽」」にご協力頂き、地元豊島区の民話を中心とした話を「読み聞かせ」形式で実施した。

おはなし会では、まず雑司が谷の鬼子母神で売られていた「ススキミミズク」にまつわる民話を話してもらった。今回のおはなし会のために、実際の話をもっと現代的で親しみやすい内容に変え、情感たっぷりに読み聞かせて頂いた。

そして次に、震災を体験した今、ぜひ子どもたち、そして大人にも聞いてほしいということで、エチオピアのゴンダールでボランティアをした人が、その体験を基にして書いたという絵本「ゴンダールのやさしい光」を朗読して頂いた。思いやりの心や、人のつながりの大切さを優しい語り口調で語って頂けた。

小学生以上を対象としたイベントであったが、大人の参加が多く、皆会話を止め熱心に聞き入っている姿が印象に残った。



西池おはなし会の様子

### ④西池袋魅力発見ツアー -立教大学編 Part2-

本ツアーは西池袋のシンボルともいえる「立教大学」の魅力を知ることにより、西池袋地域に興味を持ち、地域活動に興味を持って取り組む人たちを増やすことを目的として実施し、今回で2回目となる。

立教大学の現役学生の案内により、大学の最新校舎である12階建てのマキムホールの最上階から大学のキャンパスや西池袋のまちなみを一望した後、東京都選定歴史的建造物である図書館本館（旧館）の中を見学した。

その後、今回初の試みとして、立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究センターにご協力頂き、旧江戸川乱歩邸の見学と、江戸川乱歩に関する話を聞く貴重な機会を得ることができた。

ツアーは午前と午後に2回実施し、午前は19名の参加、午後は16名の参加であった。以下、今回のツアー参加者からの感想を紹介する。



ツアーの様子

### 【来場者の感想・成果】

- ・以前から入ってみたかったあこがれの図書館。やっぱり落ち着きます。乱歩邸とマキムの眺めもとてもステキでした。
- ・初めて校内の主要施設を拝見させていただき、素晴らしさに感銘いたしました。有難うございました。
- ・12階の建物や図書館、乱歩邸など興味深くておもしろかったです。案内の方も感じがよくてよかったです。
- ・高いところから一望するのはよかったです。ないものねだりすれば、そこがもう少し広い場所だったりすれば……。大学内を見るだけで面白いですね。
- ・外部の者にはわかりにくい、いろいろのことがわかって楽しかったです。地元なのでまた遊びに着たいと思います。

### ⑤西池袋ギャラリー

昨年に引き続き「西池袋の風景画」を大きなテーマとし、地元西池袋在住の方々や、地元の児童から沢山の作品が集まり、「西池袋ギャラリー」として展示発表を行った。

地元の小学生と教員から42点、地元住民の方々から9点の作品が寄せられた。

児童たちからは、現在の池袋の様子や未来の予想図、友達と遊んでいる絵画等、楽しく明るい作品を、また地元住民の方々からは、公園や庭越しの風景を捉えた水彩画やユニークな人物画、そして池袋ではないが震災の



ギャラリーの様子

爪痕が残る貴重な街の写真等もお寄せ頂いた。今回も昨年に引き続き、展示の企画・運営は、西池袋南町会の間根山氏に全面的にご協力頂いた。

また、今回はかふえの来場者にその場で絵を描いてもらうスペースも設け、かふえ実施中にイラストを描く子どもの姿も見られた。

これらの展示がきっかけとなり、来場者と地域住民とのさまざまな交流が生まれていた。西池袋ギャラリーが、西池袋住民のさまざまな能力や可能性を発揮できる場として更に発展してきていることを実感することができた。

### ⑥不用品交換会

今回初めての試みとして、不用品交換会"xChange"を開催した。これは、各家庭からもう着ることもないのに捨てられない服や使わなくなった小物などを持ち寄ってもらい、その服などにまつわるエピソードが書かれたタグを付けて会場に展示し、欲しい人が無料で持ち帰るというもので、"xChange"という名称で既に様々なイベントの中で開催されてきた実

績がある。「ものを大切にすること」や「ものを通して（お金を介在しないで）他の人とつながり合うこと」を参加者に実感してもらうことを目指し、今回の風土かふえの中で開催した。

参加人数は、持ち寄りが41名、持ち帰りが36名で、合計250点の不用品が交換された。会場は大変盛況で、リユースをしたいというニーズは潜在的にあり、その機会を求めている人が多かったということに改めて気付かされた。また、事前に風土かふえを紹介していただけいていた"xChange"のホームページを見て来場した方もおり、不用品交換会の開催が今まで風土かふえの活動を知らなかった方に知っていただくきっかけともなった。



不用品交換会の様子①



不用品交換会の様子②

これらの6つの方法でかふえを実施することにより、本イベントの目標である、①地域内及び地域間でのつながりづくり、②西池袋に関する情報発信、③地元住民の人材活用、④世代を超えて地域について語る場として、風土かふえが確実に機能していることを実感することができた。また、今回新たな試みとして不用品交換会を実施したことで、リユース等に興味のある新たな客層が来場してくれ、風土かふえに興味を持つきっかけづくりをすることができた。今後も継続してさまざまな対象者に向けたイベントを実施し、新たな層の開拓も行っていきたい。

風土かふえは今回で4度目の試みということで、大学、地元町会、学生団体との連携も十分に行うことができるようになり、それぞれの団体がお互いのアイデアを出し合うことにより、より良いイベントが実施できたように感じた。また、リピート参加者が増えていることから、風土かふえが地元で根付いたイベントになりつつあることが分かる。

今後はリピート参加者が何らかの形で地域活動に参加してくれるようになる仕組みをつくっていききたい。